

令和7年度(2025)
全国及び市学力・学習状況調査に係る結果について

令和7年(2025)10月1日

出雲市教育委員会

令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査に係る結果について

出雲市教育委員会では、学校、家庭及び地域による学力向上の取組をより一層推進していくために、全国及び市学力・学習状況調査の結果をまとめました。

この調査結果をもとに、市教育委員会及び学校では、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等を図ります。

なお、この学力調査結果は、学力の一部であり、学力の全てを表すものではありません。

1 全国学力・学習状況調査の概要

(1) 実施日

令和7年4月17日(木)(調査基準日)

※中学校理科は、令和7年4月14日(月)～17日(木)のいずれかで実施

(2) 対象学年及び教科等

小学校 第6学年 (国語、算数、理科、意識調査)

中学校 第3学年 (国語、数学、理科【CBT】、意識調査)

※【CBT】(Computer Based Testing) 児童生徒用タブレットPCを活用したテスト

(3) 調査結果(小学校国語、算数、理科及び中学校国語、数学の結果は、平均正答率) (中学校理科【CBT】の結果は、IRTスコア)

※IRTスコア…問題の難易度などから学力を推定し、500点を基準とする。異なる問題を解いても学力を比べられるため、経年比較ができる。

① 小学校第6学年

教科	国語		算数		理科	
年度	R 6	R 7	R 6	R 7	R 4	R 7
出雲市	68	65	62	56	61	58
島根県	67	64	61	55	62	56
全国	67.7	66.8	63.4	58.0	63.3	57.1
市と県の差	+1	+1	+1	+1	-1	+2
市と国の差	+0.3	-1.8	-1.4	-2.0	-2.3	+0.9

② 中学校第3学年

教科	国語		数学		理科	
年度	R 6	R 7	R 6	R 7	R 4	R 7
出雲市	58	55	50	49	49	514
島根県	57	53	49	46	48	494
全国	58.1	54.3	52.5	48.3	49.3	503
市と県の差	+1	+2	+1	+3	+1	+20
市と国の差	-0.1	+0.7	-2.5	+0.7	-0.3	+11

- ・小学校第6学年の国語、理科は全国平均正答率と同程度で、算数はやや下回った。
- ・中学校第3学年の国語、数学は全国平均正答率と同程度であった。理科は、全国の平均IRTスコアを上回った。

2 出雲市学力・学習状況調査の概要

(1) 実施日

令和7年4月17日（木）

(2) 対象学年及び教科

- ・小学校第4学年〔国語、算数、学習状況調査〕
- ・小学校第5学年〔国語、算数、学習状況調査〕
- ・中学校第1学年〔国語、数学、学習状況調査〕
- ・中学校第2学年〔国語、数学、英語、学習状況調査〕

(3) 平均正答率

教科		国語		算数／数学		英語	
年度		R 6	R 7	R 6	R 7	R 6	R 7
小4	出雲市	68.3	63.0	70.5	70.1		
	全 国	73.4	66.8	72.1	72.4		
	市と国の差	-5.1	-3.8	-1.6	-2.3		
小5	出雲市	61.8	61.2	62.6	63.8		
	全 国	64.9	66.2	64	67.9		
	市と国の差	-3.1	-5.0	-1.4	-4.1		
中1	出雲市	63	65.9	66	70.4		
	全 国	61.3	64.5	64.4	66.8		
	市と国の差	1.7	1.4	1.6	3.6		
中2	出雲市	66.3	63.7	54.7	51.9	52.4	50.8
	全 国	65.1	65.0	54.7	53.6	52.7	51.3
	市と国の差	1.2	-1.3	0	-1.7	-0.3	-0.5

- ・小学校第4学年の国語は、全国平均正答率を下回り、算数はやや下回った。
- ・小学校第5学年は、国語・算数ともに全国平均正答率を大きく下回った。
- ・中学校第1学年の国語は、全国平均正答率と同程度であり、数学は上回った。
- ・中学校第2学年は、国語・数学・英語全てにおいて全国平均正答率と同程度であった。

【表記について】

①全国または市の平均正答率と比較した状況について記載するときは、次のように表現する。

- ・±2未満 「同程度」「差は見られない」
- ・±2以上、±3未満 「やや上回る」または「やや下回る」
- ・±3以上、±4未満 「上回る」または「下回る」
- ・±4以上 「大きく上回る」または「大きく下回る」

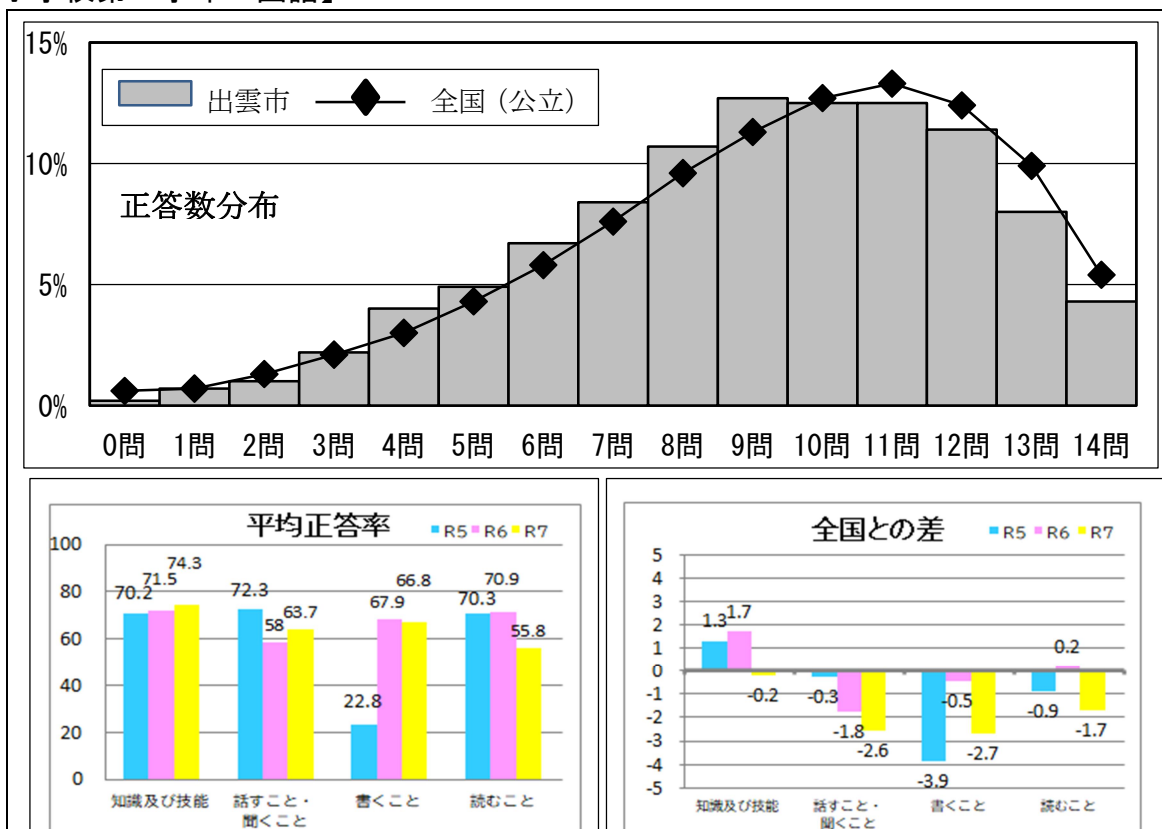
②全国または市の IRT スコアと比較した状況について記載するときは、次のように表現する。

- ・IRT スコアと同スコア 「同程度」「差は見られない」
- ・IRT スコアより高い 「上回る」
- ・IRT スコアより低い 「下回る」

③「結果分析」の欄について記載するときは、成果を○、課題を●とする。

3 全国学力調査の結果について

【小学校第6学年 国語】



・高正答率（8割以上の正答：14問中11問以上の正答）の児童の割合は、36.2%であり、全国（41.0%）を大きく下回る。中間層（4割から7割の正答：6問から10問の正答）の児童の割合は、51.0%であり、全国（47.0%）を大きく上回る。

○無解答率は、14問中13問が県及び全国よりも低い。

知識及び技能

○市平均正答率は、過去3年間ともに全国平均正答率と同程度である。

《我が国の言語文化に関する事項》

○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づくことができる。

思考力、判断力、表現力等

《話すこと・聞くこと》

○話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。

《書くこと》

○図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

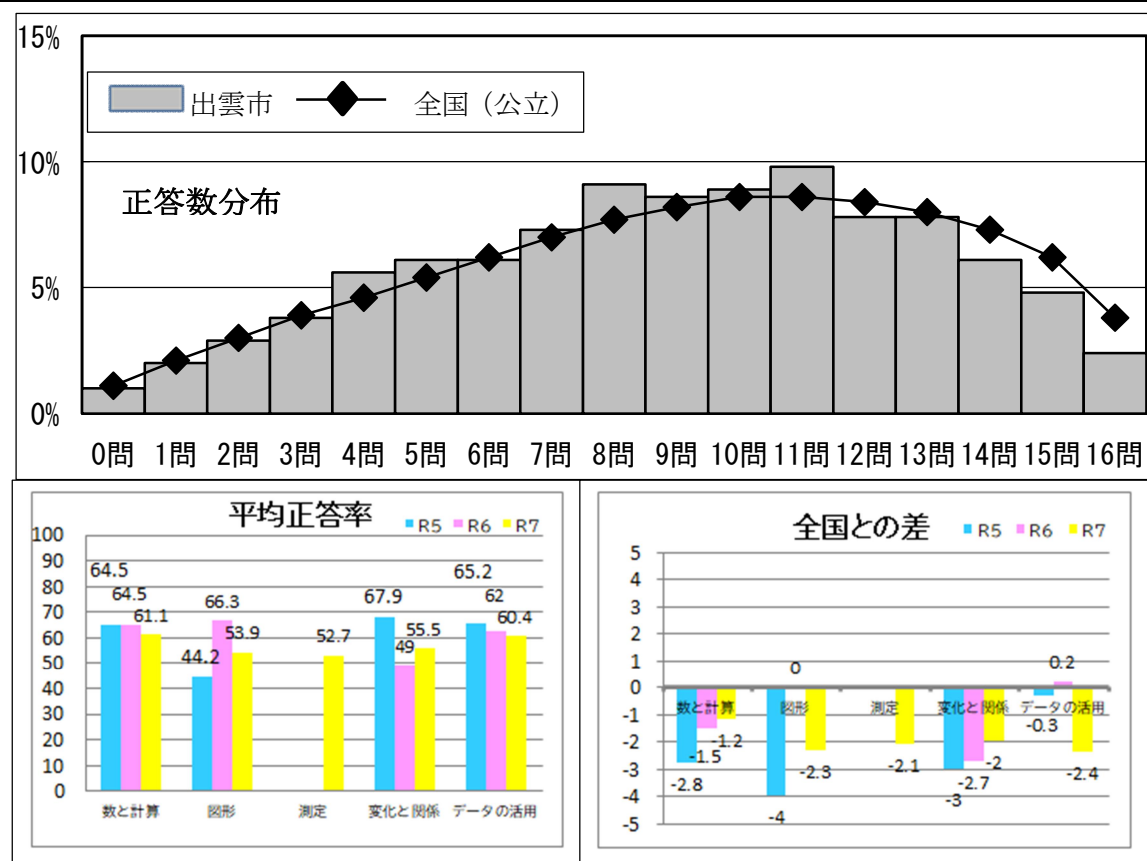
●目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られる。

《読むこと》

○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。

●目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題が見られる。

【小学校第6学年 算数】



- ・高正答率（8割以上の正答：16問中13問以上の正答）の児童の割合が21.1%であり全国（25.3%）を大きく下回る。中間層（4割から7割の正答：7問から12問の正答）の児童の割合は51.5%であり全国（48.5%）を上回る。
- 無解答率は、16問すべての問題において県及び全国よりも低い。

数と計算

- 市平均正答率は、全国平均正答率と同程度である。
- 異分母の分数の加法の計算をすることができている。
- 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述することに課題が見られる。

図形

- 角の大きさについて理解できている。
- 五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書くことに課題が見られる。

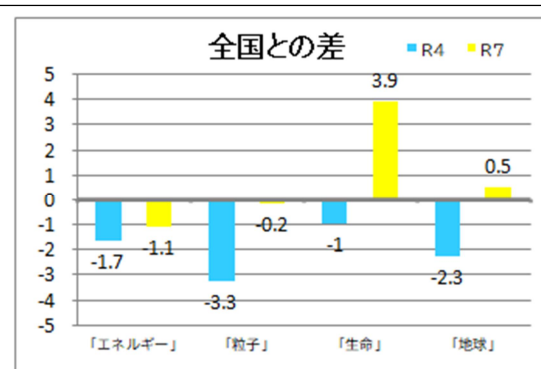
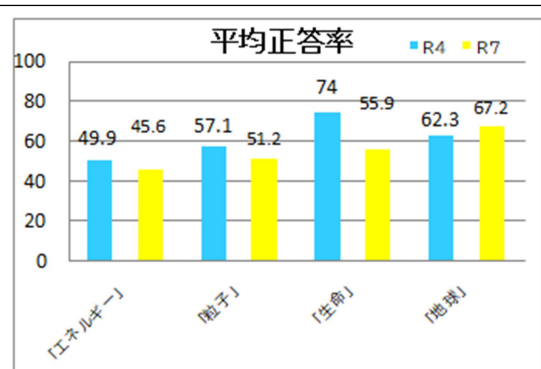
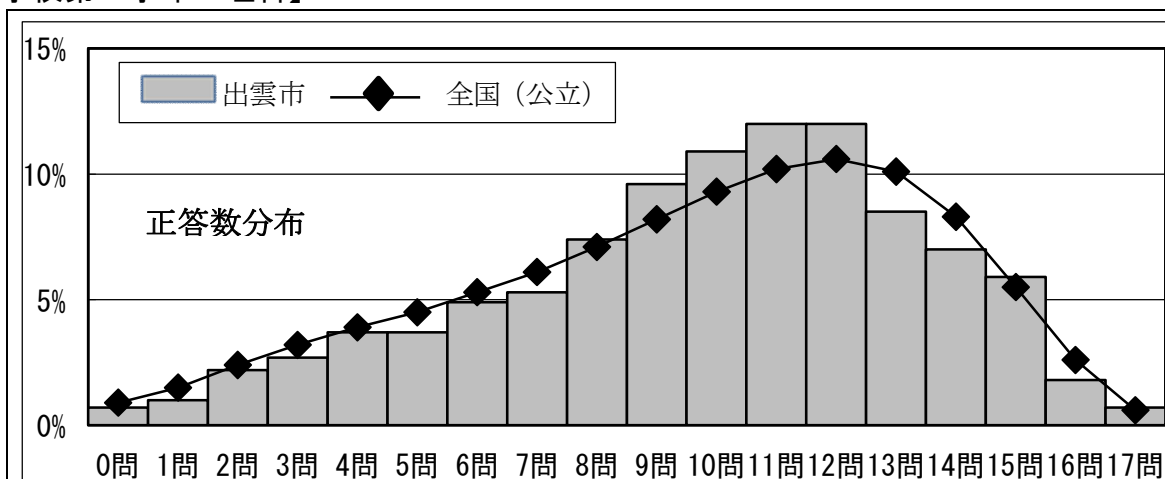
変化と関係

- 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができている。
- 「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことに課題が見られる。

データの活用

- 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができている。
- 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題が見られる。

【小学校第6学年 理科】



・高正答率（8割以上の正答：16問中13問以上の正答）の児童の割合が23.9%であり全国（27.1%）を下回る。また、中間層（4割から7割の正答：7問から12問の正答）の児童の割合は57.2%であり、全国（51.5%）を大きく上回る。
○無解答率は、17問すべての問題において県及び全国よりも低い。

「エネルギー」を柱とする領域

○電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻き数によって変わることについての知識が身についている。

「粒子」を柱とする領域

●身の回りの金属について、電気を通すもの、磁石に引き付けられる物があることについての知識に課題が見られる。

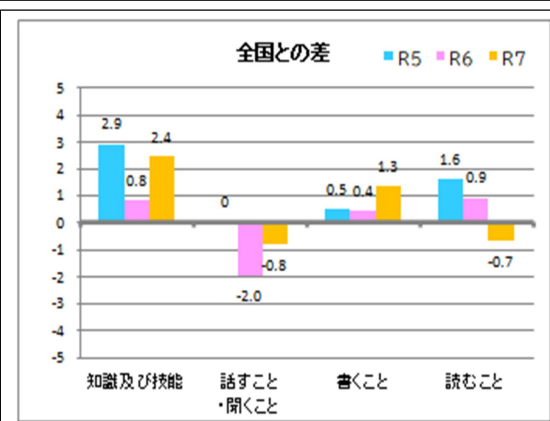
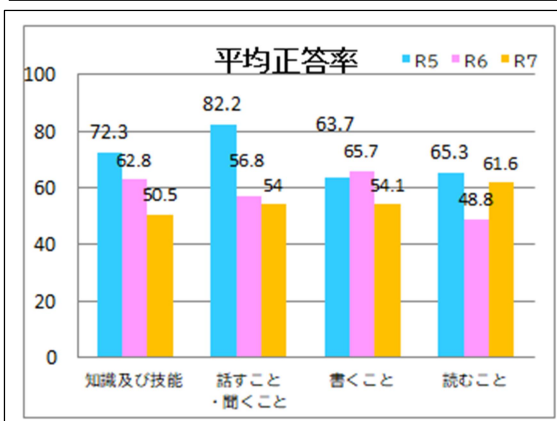
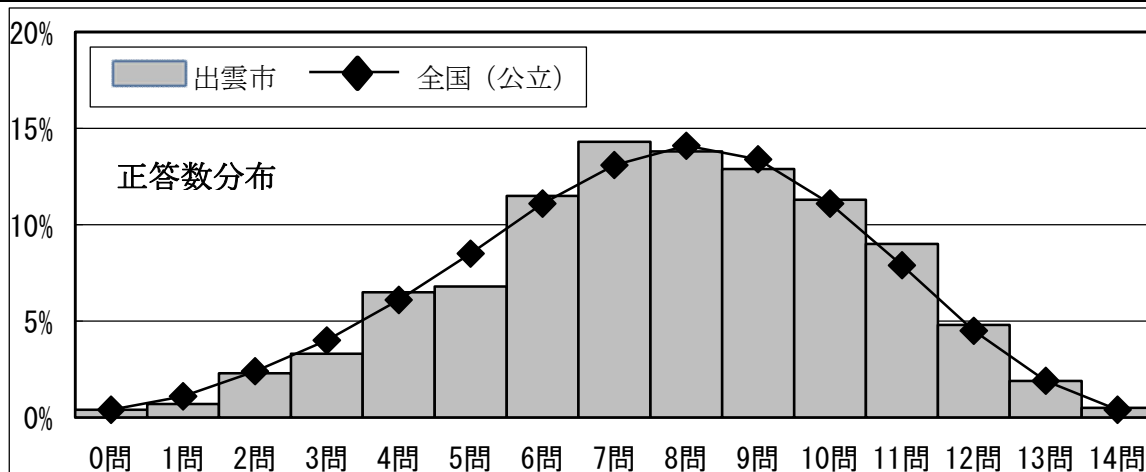
「生命」を柱とする領域

○市平均正答率が、全国平均正答率を上回っている。
○へちまの花のつくりや受粉についての知識が身に付いている。
●レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし表現することに課題が見られる。

「地球」を柱とする領域

○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができている。
○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができている。

【中学校第3学年 国語】



・高正答率（8割以上の正答：14問中11問以上の正答）の生徒の割合が16.2%であり全国（14.7%）と同程度である。また、中間層（4割から7割の正答：6問から10問の正答）の生徒の割合は63.8%であり全国（62.8%）と同程度である。

知識及び技能

○市平均正答率が、全国平均正答率をやや上回っている。

《言葉の特徴や使い方に関する事項》

●文脈に即して漢字を正しく使うことに課題が見られる。

思考力、判断力、表現力等

《話すこと・聞くこと》

○相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。

●資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題が見られる。

《書くこと》

○目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。

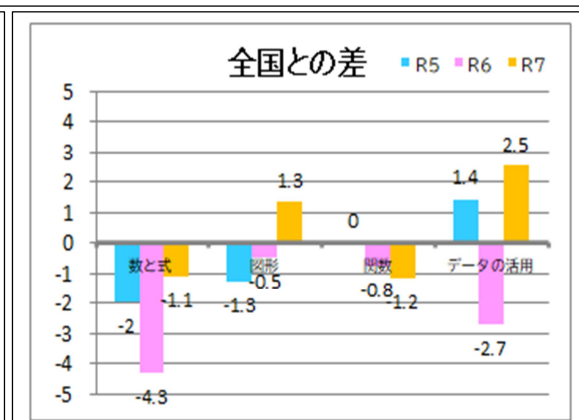
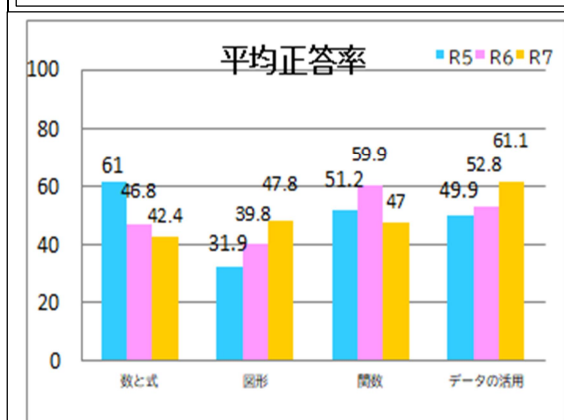
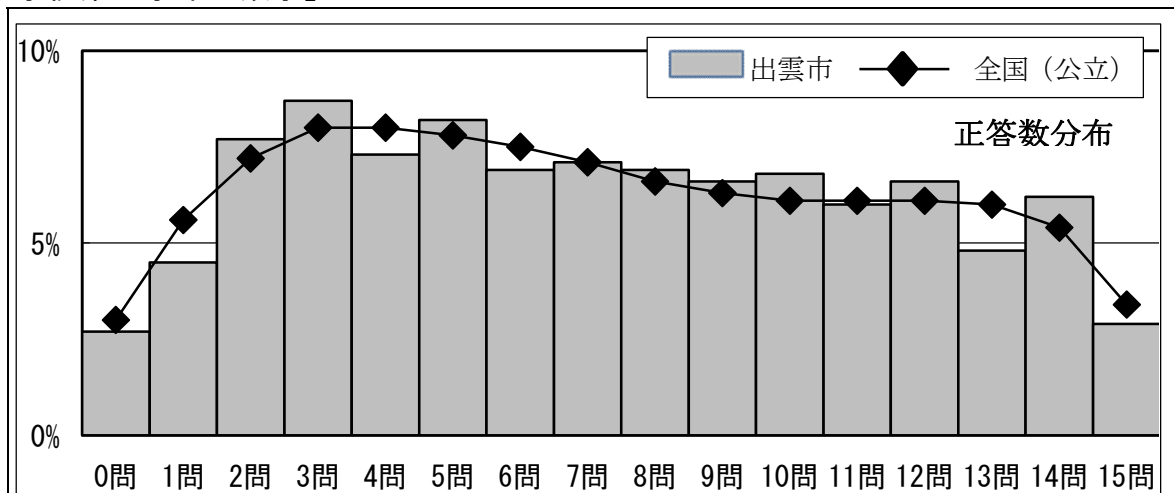
●読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることに課題が見られる。

《読むこと》

○文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができる。

●文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題が見られる。

【中学校第3学年 数学】



・高正答率（8割以上の正答：15問中12問以上の正答）の生徒の割合が20.5%であり全国（20.9%）と同程度である。中間層（4割から7割の正答：6問から11問の正答）の生徒の割合は40.3%であり、全国（39.7%）と同程度である。

数と式

- 式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。
- 素数の意味理解について課題が見られる。

図形

- 市平均正答率が、全国平均正答率と同程度である。
- ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに課題が見られる。

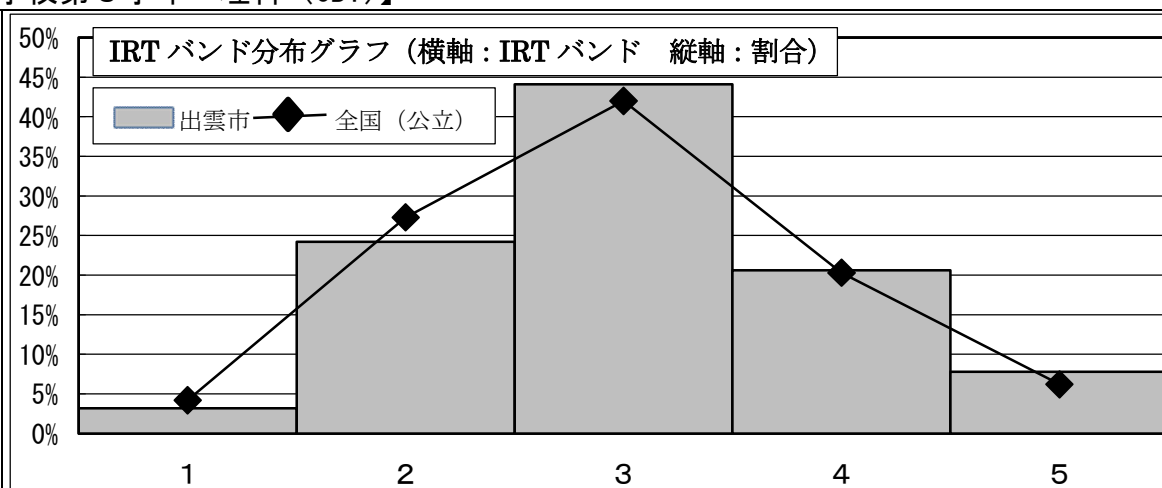
関数

- 事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができている
- 一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることに課題が見られる。

データの活用

- 市平均正答率が、全国平均正答率をやや上回っている。
- 必ず起こる事柄の確率について理解している。

【中学校第3学年 理科（CBT）】



「エネルギー」を柱とする領域

- ストローの太さと音の高低に関する情報を収集してまとめを行う学習活動の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いている。【日程別問題】
- 【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明することに課題が見られる。【日程別問題】

「粒子」を柱とする領域

- 科学的な探求を通してまとめたものを他者が発表する学習場面で、探求から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できている。【全日程共通問題】
- 加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いている。【日程別問題】

「生命を」柱とする領域

- 生命を維持する働きに関する知識に課題が見られる。【全日程共通問題】
- 小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面で、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することに課題が見られる。【日程別問題】

「地球」を柱とする領域

- 大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定することに課題が見られる。【日程別問題】

【注釈】

- 1 令和7年度中学校理科の CBT 問題の構成について
 - (1)公開問題10問と非公開問題16問を組み合わせ、全26問で構成。
 - (2)公開問題は、全日程に共通する問題6問と実施日により異なる問題4問のセットがあり、同じ調査日に実施する生徒は同じ公開問題のセットを解く。
 - (3)非公開問題16問については、生徒ごとに異なる問題を解く。
- 2 IRT バンドについて
 - ・IRT スコアを1～5段階に区切ったもの。3を基準とし、5が最も高い。

4 学習状況調査の結果について

(1) 児童生徒の質問紙調査の経年変化と全国平均との差 (全国調査から抜粋)

【生活や家庭学習に関すること ①～⑥】

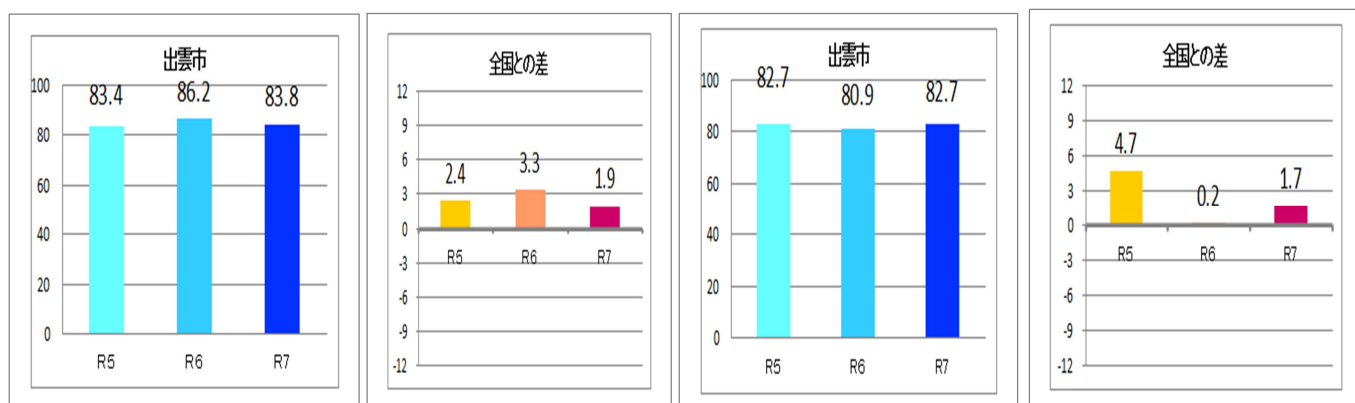
- ・ 8 割以上の児童生徒が、同時刻に就寝している。
- ・ 8 割の児童生徒が「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」と回答しており、学びを広げ深めようとする児童生徒が多く見られる。中学校は全国をやや上回っている。
- ・ 8 割以上の児童生徒が「自分にはよいところがある」と自己肯定感をもっている。小・中学校ともに、肯定的な回答をする児童の割合が高まっている。
- ・ 「将来の夢や目標をもつ」と回答した児童の割合が 8 割を上回っている。中学校は、7 割程度であり、全国をやや上回っている。
- ・ 「新聞を週に 1 回以上読む」児童生徒の割合は、小学校は全国をやや上回り、中学校は全国と同程度である。
- ・ 8 割の児童生徒が「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答しており、ふるさとへの貢献意欲が高い児童生徒が多く見られる。

① 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

「している」「どちらかといえば、している」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第 6 学年

中学校第 3 学年

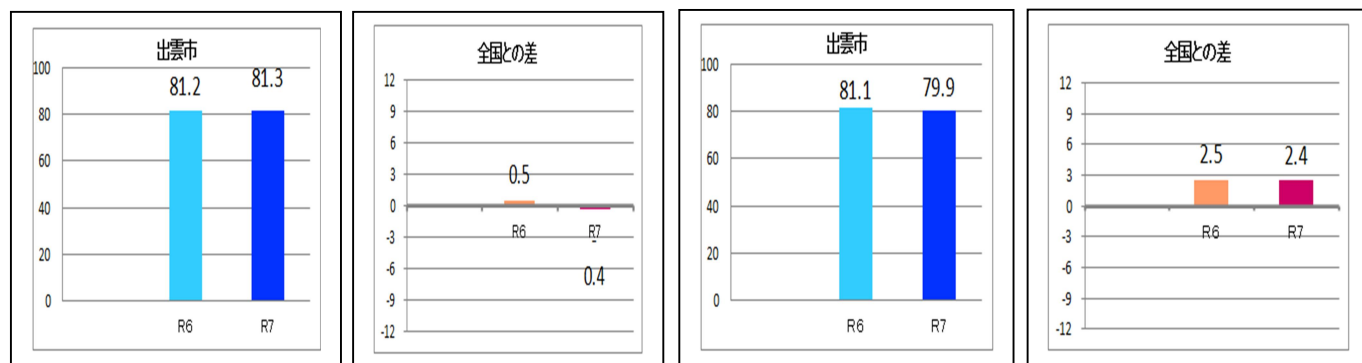


② 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

「できている」「どちらかといえば、できている」と肯定的な回答をした児童生徒の

小学校第 6 学年

中学校第 3 学年

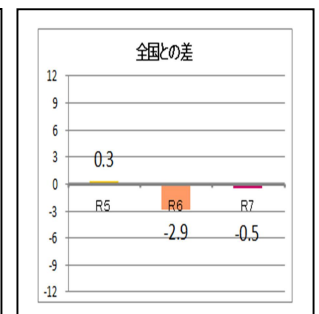
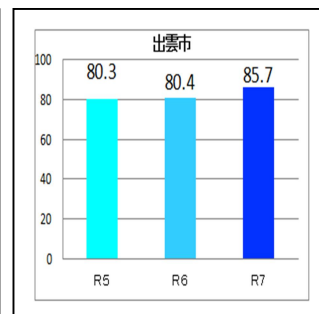
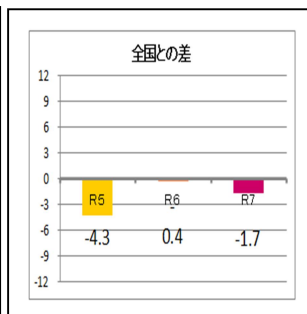
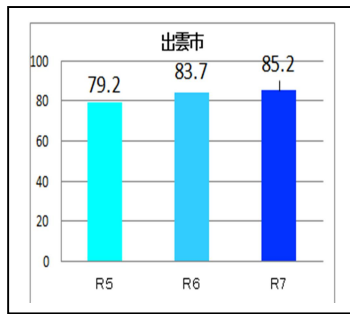


③ 自分には、よいところがあると思いますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

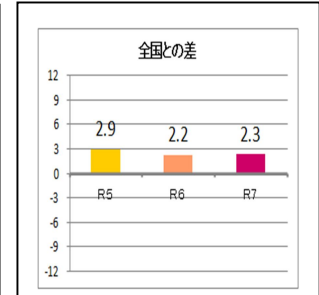
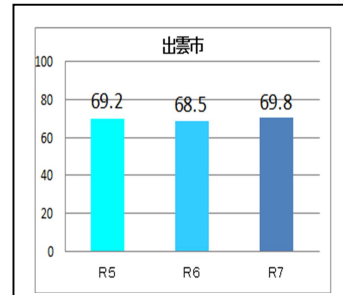
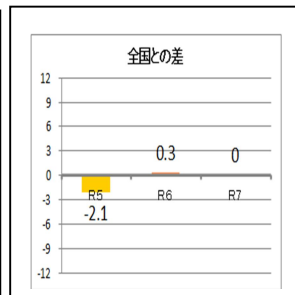
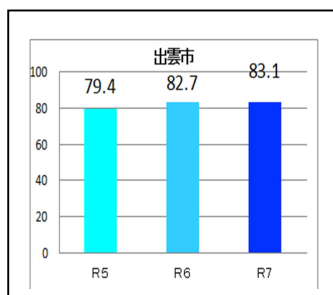


④ 将来の夢や目標を持っていますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

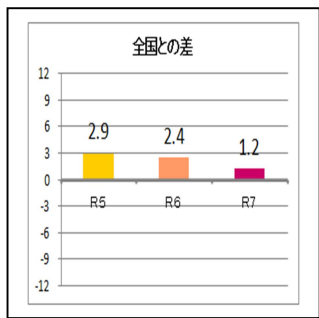
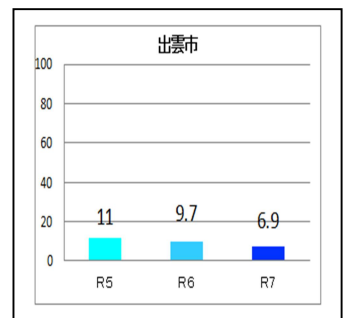
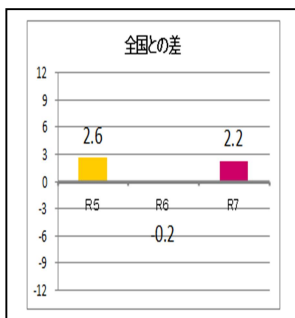
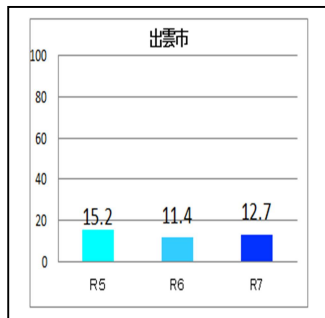


⑤ 新聞を読んでいますか。

「週に1回以上読んでいる」と回答した児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

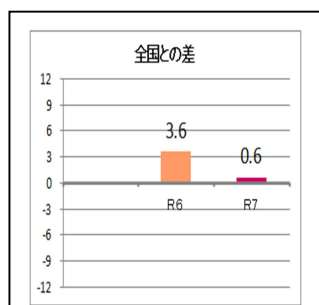
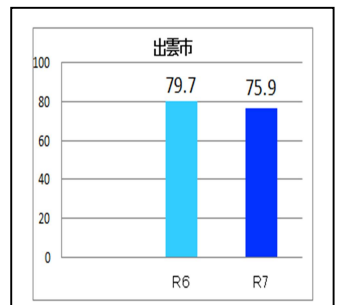
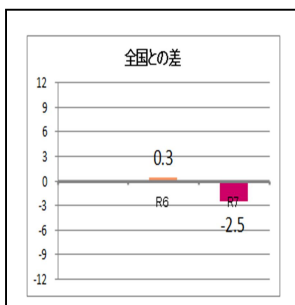
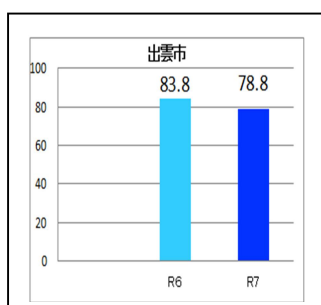


⑥ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年



【学習に関すること ⑦～⑬】

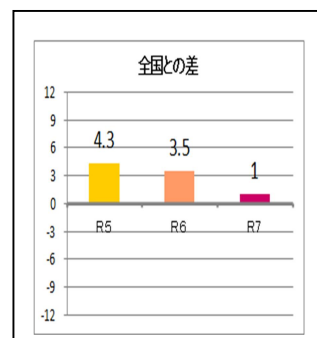
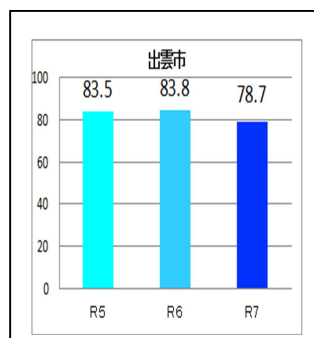
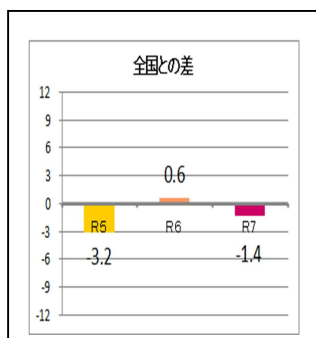
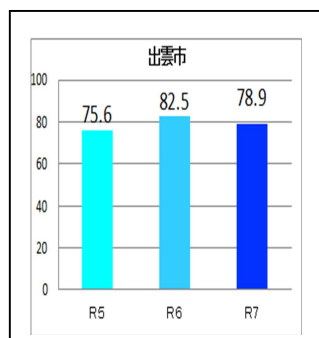
- ・8割の児童生徒が「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。」「分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている。」と回答しており、中学校は、全国を上回っている。
- ・「国語の授業内容がよく分かる」、「算数/数学の授業内容がよく分かる」と回答した児童の割合は8割以上であり、全国と同程度である。中学校は、7割程度であり、全国をやや下回っている。
- ・8割以上の児童生徒が「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答している。主体的・対話的で深い学びの視点をもった授業づくりが進められている成果と考えられる。
- ・8割以上の児童生徒が「授業でI C T機器を週1回以上活用している」と回答しており、全国との差は少しずつ縮まっている。

⑦ 前の学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

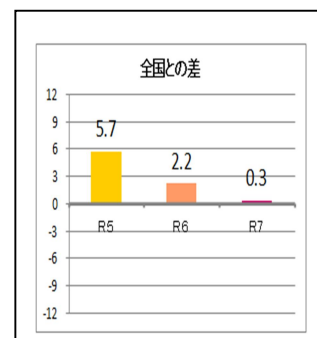
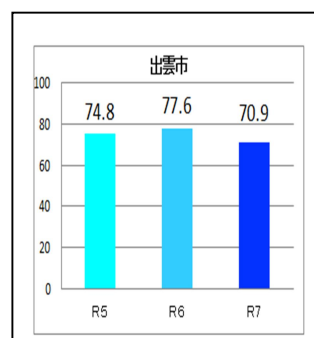
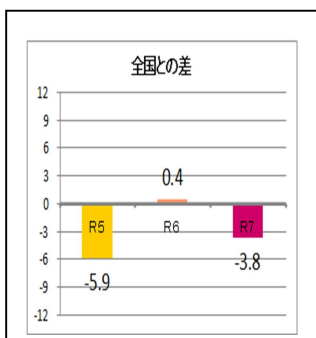
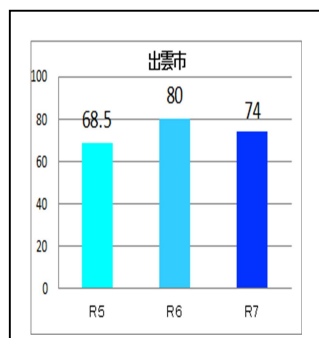


⑧ 前の学年までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしなが、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

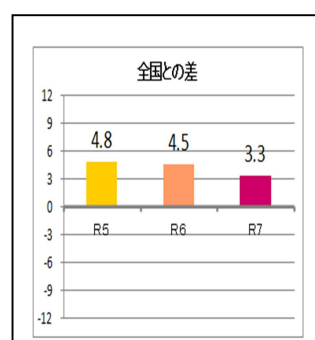
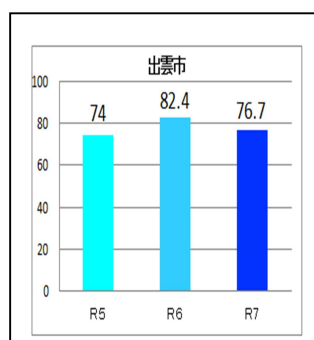
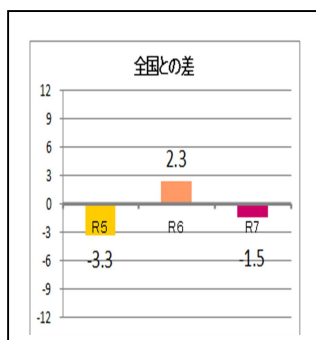
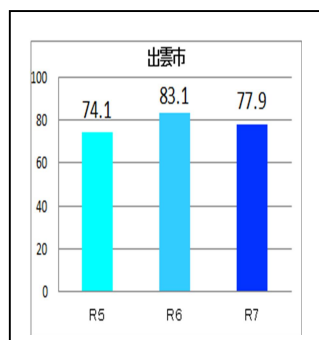


- ⑨ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

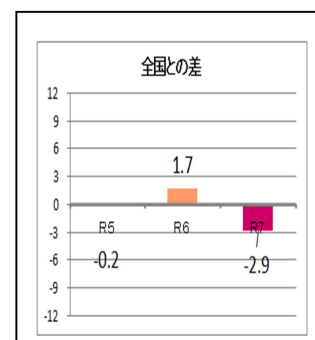
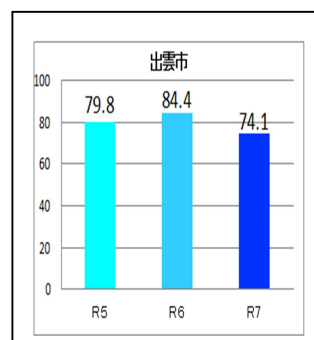
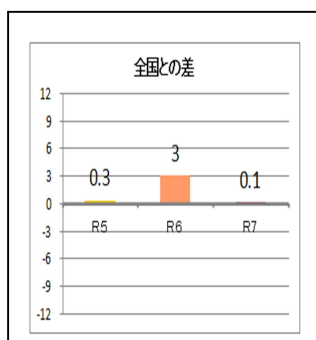
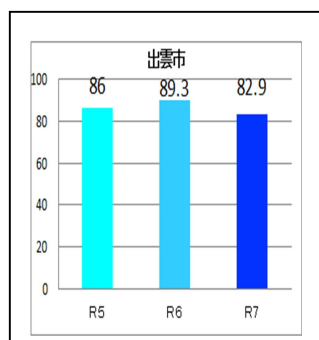


- ⑩ 国語の授業の内容はよく分かりますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

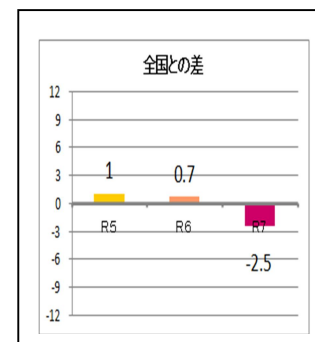
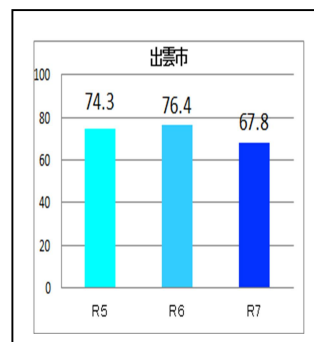
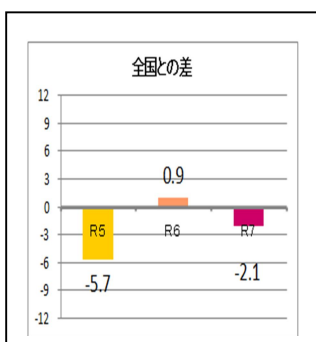
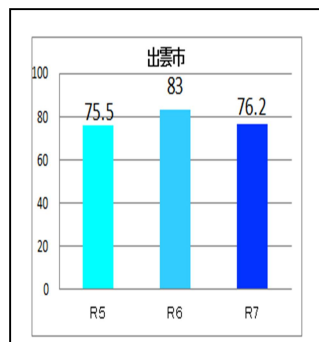


- ⑪ 算数/数学の授業の内容はよく分かりますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

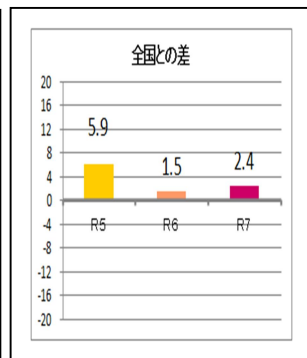
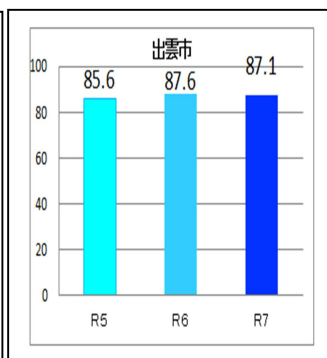
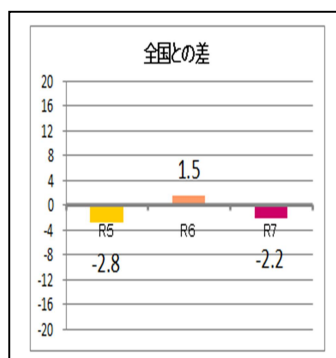
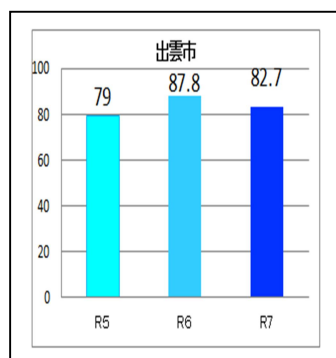


- ⑫ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

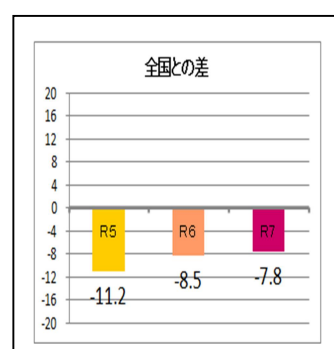
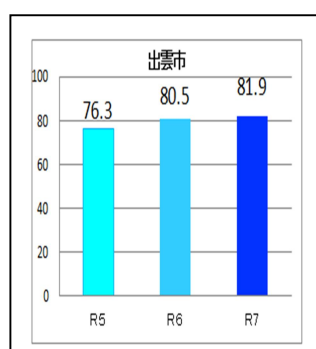
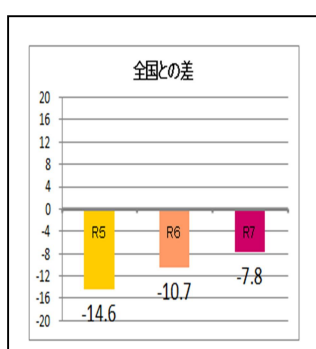
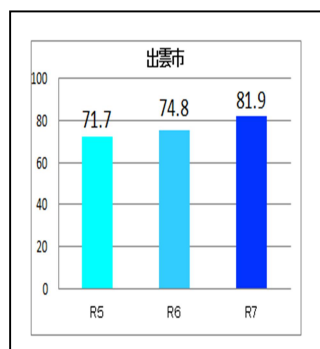


- ⑬ 前の学年までに受けた授業では、P CやタブレットなどのI C T機器を使用しましたか。

「週1回以上」と回答をした児童生徒の割合

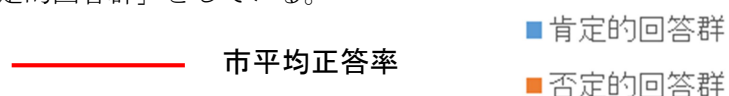
小学校第6学年

中学校第3学年

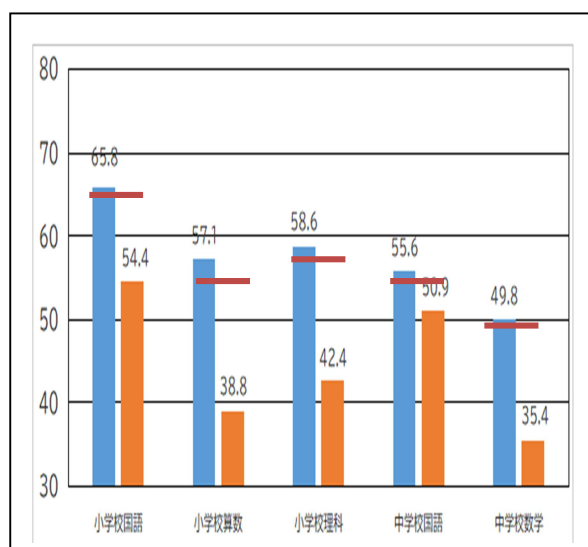


(2) 児童生徒の学習状況と教科の平均正答率 (全国調査から抜粋)

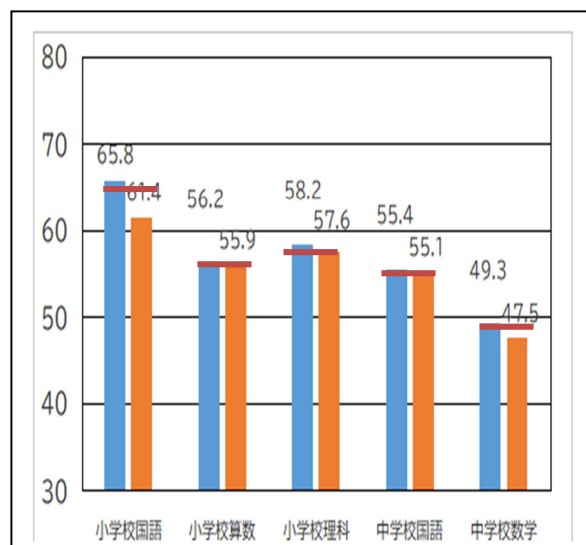
※ 次の①～⑫の質問について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」などと回答した児童生徒を「肯定的回答群」、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒を「否定的回答群」としている。



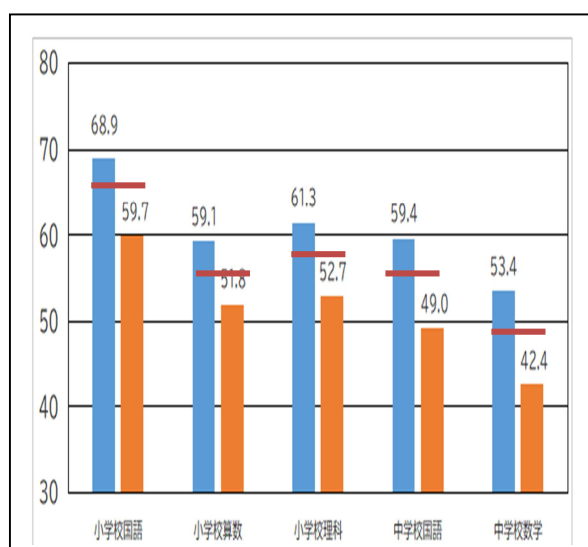
①朝食を毎日食べていますか。



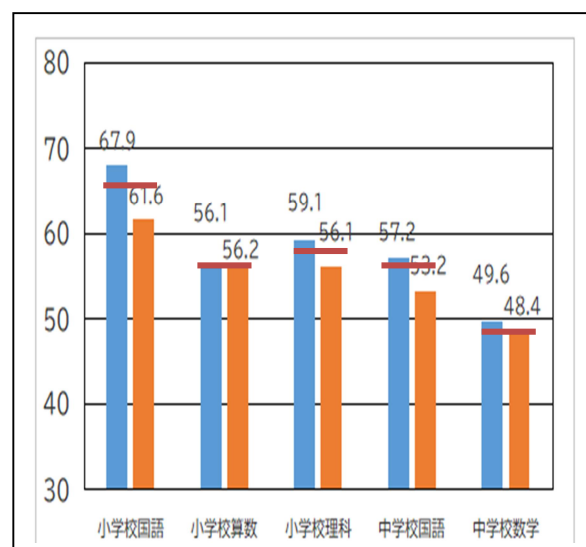
②学校に行くのは楽しいと思いますか。



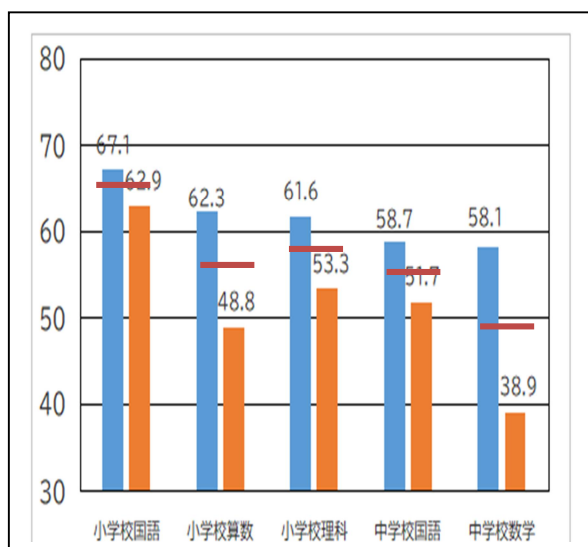
③読書は好きですか。



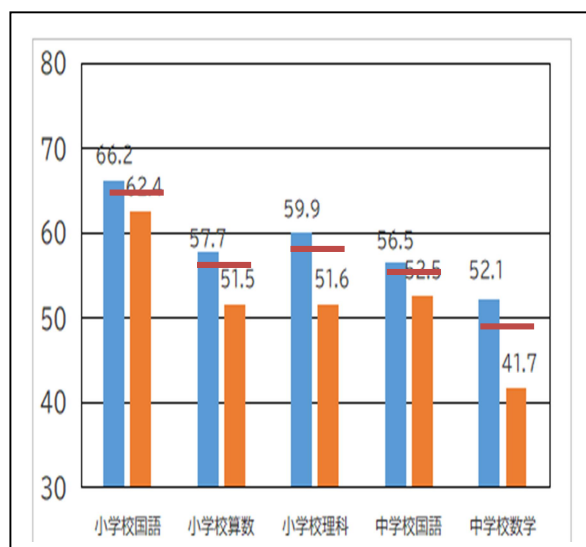
④国語の勉強は好きですか。



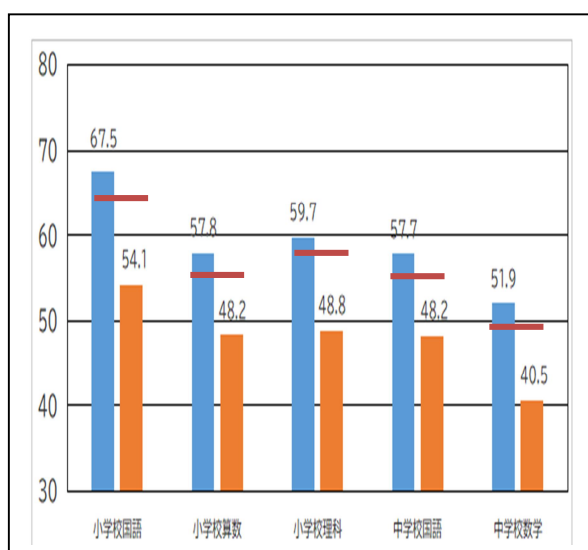
⑤算数・数学の勉強は好きですか。



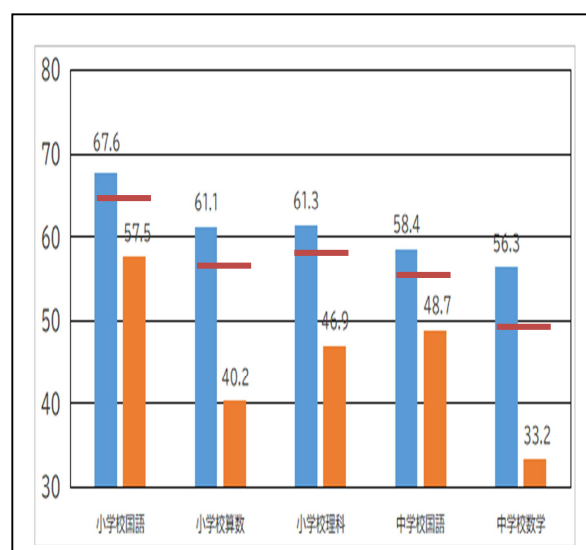
⑥理科の勉強は好きですか。



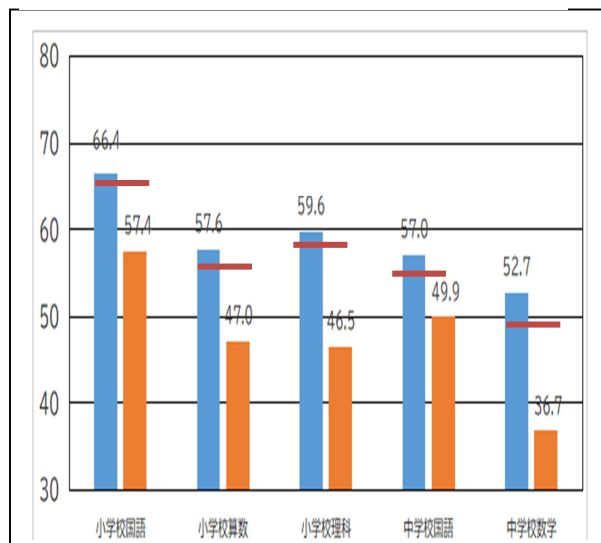
⑦国語の授業の内容はよく分かりますか。



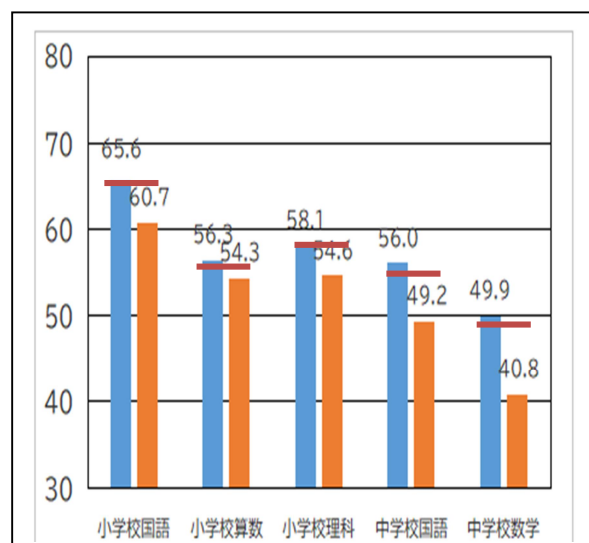
⑧算数/数学の授業の内容はよく分かりますか。



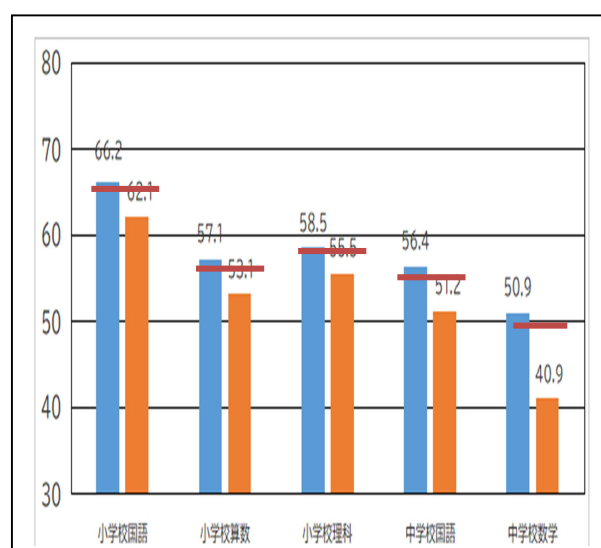
⑨理科の授業の内容はよく分かりますか。



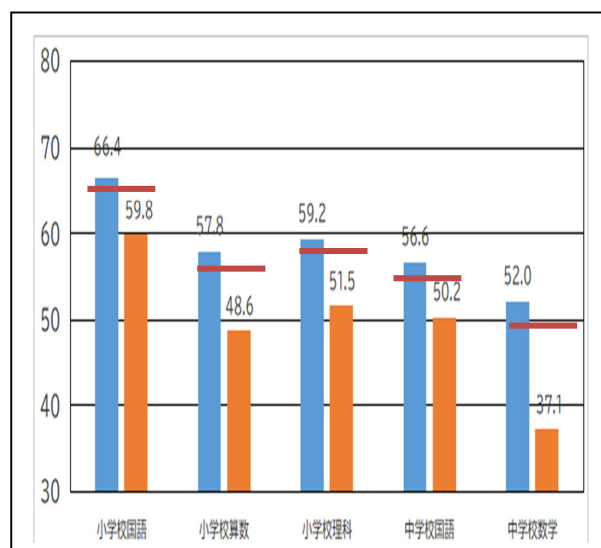
⑩先生は、あなたのよいところを認めてくれますか。



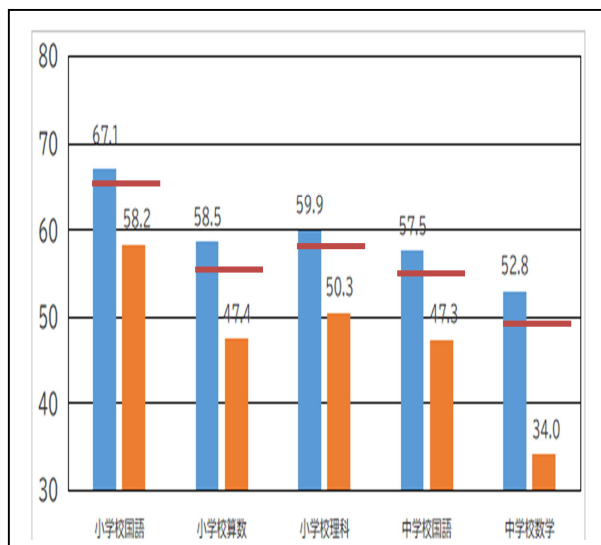
⑪自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。



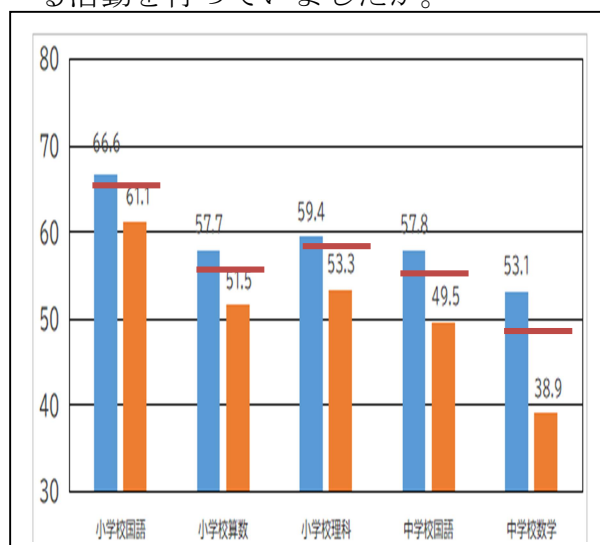
⑫分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。



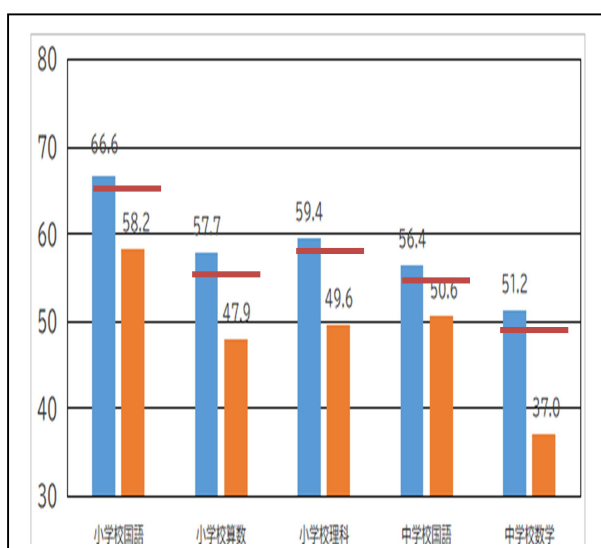
⑬授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



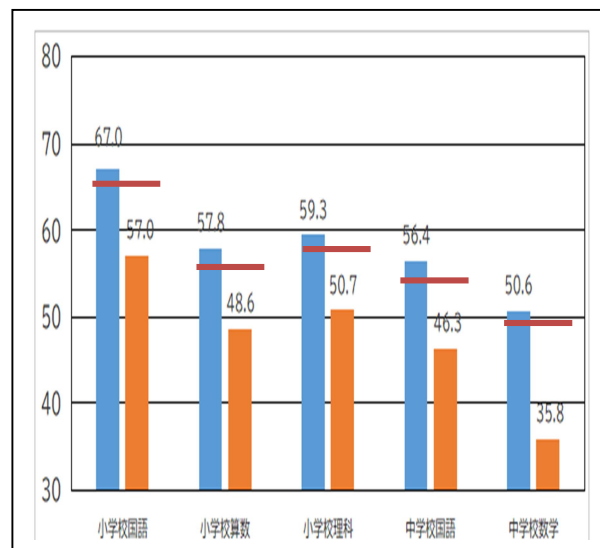
⑭授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。



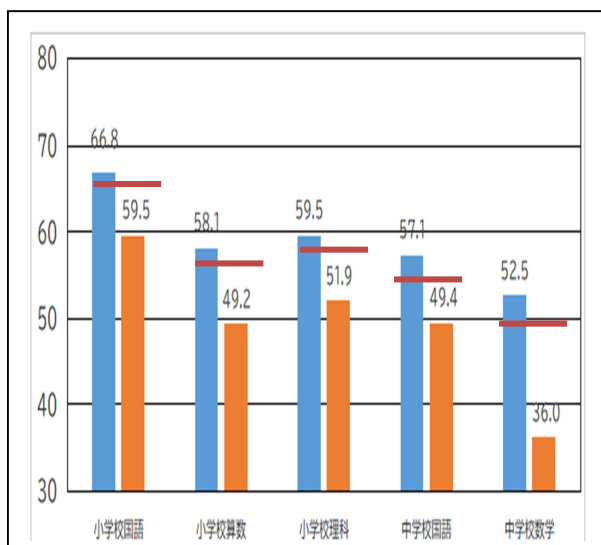
⑮授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。



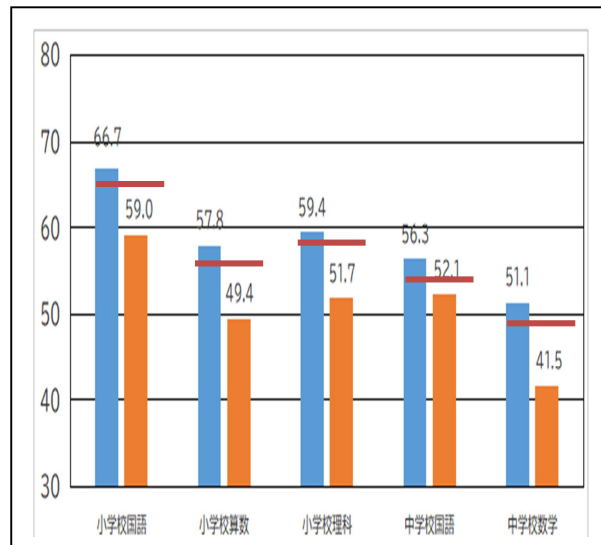
⑯学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか。



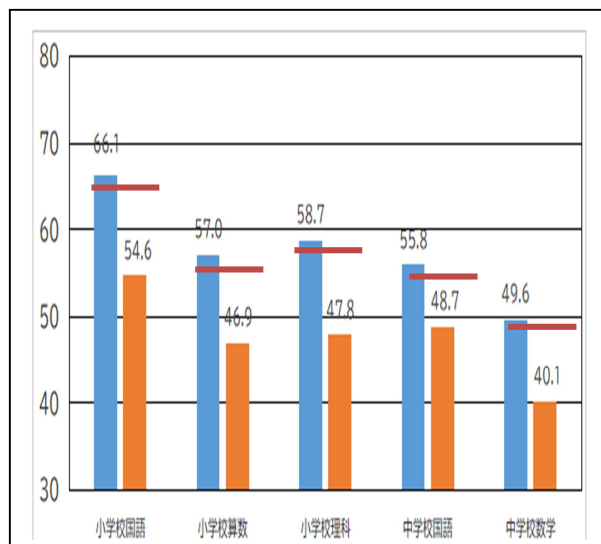
⑰学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができましたか。



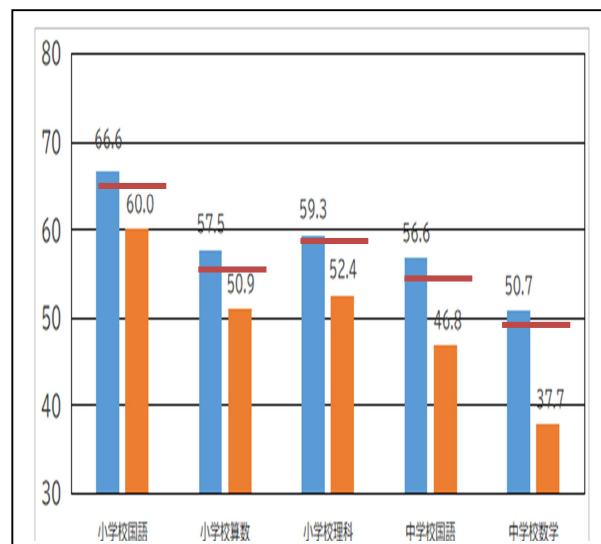
⑱授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができるとおもいますか。



⑲授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。



⑳総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



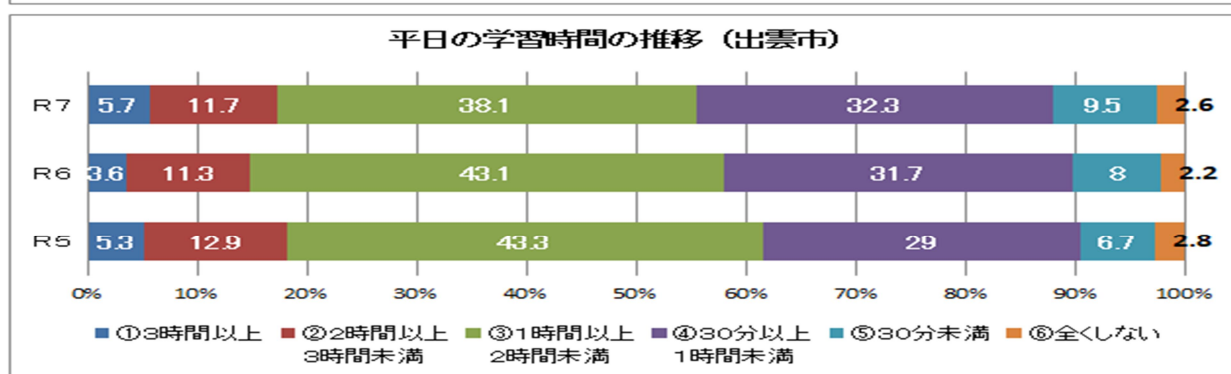
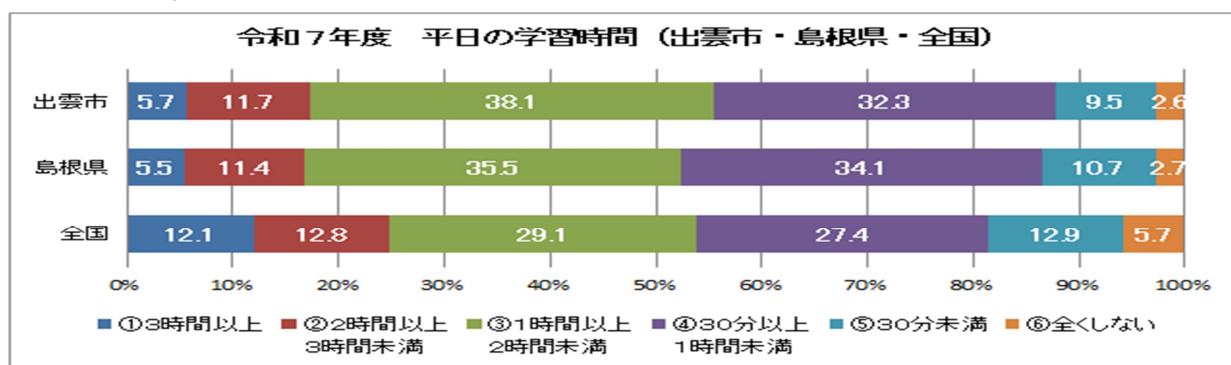
(3) 平日の家庭学習時間の状況

① 小学校第6学年

(%)

平日1時間以上学習する児童の割合は、島根県及び全国より高い。

平日1時間以上学習する児童の割合は、減少傾向であり、学習時間の確保が課題である。



② 中学校第3学年

(%)

平日1時間以上学習する生徒の割合は、島根県より高いが全国より低い。

平日1時間以上学習する生徒の割合は、減少傾向であり、学習時間の確保が課題である。

